

日中指示詞の対照研究

— “这” が「コ・ソ・ア」系指示詞に翻訳された例を中心として—

邱 麗君

1. はじめに

日本語の指示詞が「コ・ソ・ア」の3項目であるのに対して、中国語の指示詞は“这(zhè)/那(nà)”の2項目しかなく、一対一のように簡単に対応することができない。しかし、日本語の指示詞に関する先行研究は膨大な蓄積があり、それに対して中国語の指示詞に対する先行研究は少なく、質量ともに日本語の指示詞に及ぶところではない。それが原因か今まで目に触れる日中両言語の指示詞の対照研究は、ほとんどが日本語の指示詞に着目して中国語の指示詞と対応しているかどうかを論じている。代表的な先行研究は木村(1983、1992)、高麗雅(1986)、路玉昌(1999、2000、2001、2006)、史隽(2011、2012)、劉羈(2009、2012)などである。逆に中国語の指示詞から対応する状況を考察する研究は稀である。

本稿では中国語の指示詞“这”が日本語の「コ・ソ・ア」系指示詞に翻訳された場合に焦点をあて、指示用法の対応、指示詞の語形の統一、指示領域の異同等の視点から考察する(紙幅の関係で中国語の指示詞“那”は次回論じることにする)。

2. 研究方法

本論ではまず日中対訳資料⁽¹⁾から中国語の指示詞“这”が日本語の「コ・ソ・ア」系指示詞に翻訳された例を抽出し、中国語の指示用法の「回指」に重点を置き、両言語の指示詞の類似点と相違点を検討する。また、“这”の指し示す対象によって大きく①「人・事物」②「場所」③「時間」④「修飾」の4つの枠組みに分け、それぞれ“这1”、“这2”、“这3”、“这4”で示す。それらが日本語の指示詞と対応する場合、文の構造(指示詞の語形)・指示機能・意味の3

つの側面から分析する。

3. 中国語指示詞“这”の指示用法

中国語の指示詞に関する研究は日本語の指示詞の研究ほど盛んではない。初期の研究はほぼ呂叔湘(1985)に基づき、指示用法を分類しているが、最近の研究では陳玉洁(2010)や、楊玉玲(2010)⁽²⁾のような中国語の指示詞をさらに細分しているものが現れている。

「回指」用法に関して、呂叔湘(1985)は以下のように述べている。

“紧接上文，指示上文已说或是跟上文所说有关的事物，这是回指用法”

前文の後にあり、前文に述べていることや前文の内容と関わる事物を指すのが『回指』の使い方である。

(呂叔湘1985:203、日本語訳は邱による)

本稿では中国語の「回指(anaphora)」に焦点を当て、中国語の指示詞“这”が日本語の「コ・ソ・ア」系指示詞と対応している場合、指示詞の語形、指示用法、指示対象の類別、先行詞の有無、指示詞の文中に占める位置などを含め、日中指示詞の構成と機能の異同から日中指示詞の対応条件を考察する。

4. 用例の観察

調査した日中対訳資料では「回指」用法として用いられた“这”の用例は6538例で、そのうちで「コ・ソ・ア」系指示詞に翻訳された用例は3960例である。“这”については、「コ」系指示詞に翻訳された用例は2363例、「ソ」系指示詞に翻訳された用例は1433例、「ア」系指示詞に翻訳された用例は164例である。この結果からすると、「回指」の“这”は「ソ・ア」系指示詞より「コ」系指示詞と対応率が高いと考えられる。

また、“这1”が「コ・ソ・ア」系指示詞に訳された2314用例のうち、「コ」系は1350例(58%)、「ソ」系は842例(36%)、「ア」系は122例(約6%)である。“这2”が「コ・ソ・ア」系指示詞に翻訳された328用例のうち、「コ」

系は288例（88%）、「ソ」系は32例（10%）、「ア」系指示詞は8例（2%）である。“这3”が「コ・ソ・ア」系指示詞に翻訳された522例のうち、「コ」系は296例（58%）、「ソ」系は224例（43%）、「ア」系は2例（6%）である。“这4”は「コ・ソ・ア」系指示詞に翻訳された796例のうちに、「コ」系は429例（54%）、「ソ」系は335例（42%）、「ア」系は32例（4%）である。この結果から、人物や物事を指す“这1”は場所や時間を指す指示詞より、日本語の指示詞と対応する数が多いと考えられる。以下ではその代表的な例を示しながら分析する。

4.1 “这” ⇔ 「コ」

“这3 + 会儿/时候/时”

- (1) 有时候扇了半天杳无信息，但还有一丝轻烟在拔火罐上升腾缭绕，好象一个病人奄奄一息，好象一个病人只剩了一丝游魂。这时姜赵氏救火心切，她可以伏下身子，她可以一条腿跪地，她可以两条腿跪地，把嘴凑近煤球炉的肚脐眼，噗、噗、噗，连吹三口气。《人形》
- (1') 懸命に扇ぎつづけてもおこる気配はなく、微かな煙が立ち昇るだけのこともある。虫の息の病人さながら、この世の名残に宙をさ迷う亡霊さながらに……。こんな時、老母は火をおこそうと躍起になり口をコンロの口にあてがってフー、フーと吹きたてる。ゆらゆらとたち昇っていた薄煙が俄かに濃煙となり、目や鼻を刺激し、咳こんでしまう。だが火はおこった。〔応報〕

中国語の時間を指す指示詞には、“这会儿/这时候/这时”と“那会儿/那时候/那时”がある。朱德熙（1995：109）も時間を指す指示詞を説明するために、“这会儿（zhè huī er）”、“那会儿（nà huī er）”を代表的な例として取り上げ、「“这会儿”は発話時を指し、また叙述中に言及した過去の一時点を指すこともできるが、未来を指すことはできない。“那会儿”は過去あるいは未来の一時点を指し、発話時を指すことはできない。」と述べている。(1)の“这时”は前文に書いてある火が弱くなって、消えそうになっているとこ

ろを指している。ここで“这时”は“那时”と取り換えることが不可能である。語り手はビデオを再生しているように読み手に出来事を語っており、“那时”を使用すれば、焦点がずれてしまい、その生き生きとした場面が再現できない。日本語の訳文では「こんな時」に訳され、著者と訳者が同じ視点から出来事を述べ、本当の出来事の時制を気にせず、生き生きとした表現をするため、文脈指示用法の近称の「コ」系指示詞を用いている。

“这3” + N

- (2) 什么事啊？就是到矿上食堂吃晚饭—孟蓓在四号窗口卖饭哪。吃完了晚饭，心神不定地在山谷里转悠了好久，10点多钟，又进食堂吃了一顿夜宵，—也就是说，这一天，他吃了四顿饭。《丹》
- (2') 何の用かって？炭鉱の食堂で夕飯を食べることだ—孟蓓が四番窓口に
出ているのだ。夕飯をすましたあと—も—なんだか心が落ち着かず、丘や谷
を長い時間かけてぶらつき、十時過ぎにまた食堂に戻って夜食を食べ
た。つまり、この日、彼は一日に四回食事をしたのである〔鳳〕

(2) の“这一天”は前文に先行詞がないが、前文をカットするといつのことを指しているかが不明である。よって、“这一天”は前文に書かれている出来事の時間を指し示している。本来「“这” + N (“一天”)」は現在あるいは、発話の時間を指すことが多いが、(2) の“这一天”は(1) の“这时”と類似して、前文の内容を指し示し、過去や現在を表すより聞き手に臨場感を感じさせ、近称指示の“这”を選んでいるとわかる。訳文では同じく近称指示の「コ」系指示詞に訳されている。また、指示詞の構成からみると、(2) の“这一天”は「“这” + N (“一天”)」であり、(2') の「この日」は「コノ + N (日)」になっているため、両方とも「Dem + N」の形になり、指示詞の形式から指示用法まで対応していると言える。

4.2 “这” ⇔ 「ソ」

“这2+里/边/儿”

- (3) 奶奶的花轿行走到蛤蟆坑被劫的事，在我的家族的传说中占有一个显要的位置。蛤蟆坑是大洼子里的大洼子，土壤尤其肥沃，水份尤其充足，高粱尤其茂密。奶奶的花轿行到这里，东北天空抖着一个血红的闪电，一道残缺的杏黄色阳光，从浓云中，嘶叫着射向道路。《红》

- (3') 祖母の嫁入り輿が蛤蟆坑で追いはぎに襲われたことは、わが家族の言い伝えのなかでも重要な位置を占める。蛤蟆坑はとびきり広い平地であり、土壤はとくに肥え、水にも恵まれ、高粱がよく育った。祖母の輿がそこにさしかかったとき、東北の空にまっ赤な稻妻が走り、オレンジ色の欠けた日の光が一筋、濃い雲のなかからうなりをあげて道へ射してきた。〔高粱〕

日中対訳作品を調査した例では場所を指し示す“这”は「ソ」系指示詞と対応する例が極めて少なく、あってもほとんど全部地の文である。また、例の多くは(3)の“这里”のような決まった名詞“这里/这边/这儿”で場所を指し示す例で「“这”+N」の形になっている。(3)の登場人物の孫は語り手として語っている。過去のことであるが、前文の描写“土壤尤其肥沃，水份尤其充足，高粱尤其茂密(土壤はとくに肥え、水にも恵まれ、高粱がよく育つ)”から見ると、語り手はビデオで再生するように生き生きと場面を再現している。それと合わせるため、指示詞“这里”を用いていると考えられる。ここでは“那里”と入れ替えられない。他方、(3')のテンスが全て過去形であることからみると、訳者は目の前に事件を起きているように語っておらず、ただ過去のことを述べているだけだということがわかる。よって、訳文では「コ」系指示詞ではなく、「そこ」に訳されている。(3)の“这里”は“蛤蟆坑”を指し示し、「回指」用法に当て嵌まる。訳文(3')では「そこ」に訳され、前方照応指示として用いられているため、(3)の“这里”と(3')の「そこ」は指示用法が対応していると判断できる。

“这3” + (NumCL) + N

(4) “我家里的她娘家，有个疯子，疯得蹊跷，好得也蹊跷。”鲍彦山说，“不知怎么就疯了，疯了有十几年，(中略)问他是怎么啦！他什么也不知道，这十多年就像是睡过来似的。”《鲍》

(4’) 「うちの女房の実家にもひとり気狂いがおったが、気のふれ方も妙な具合なら、治ったのも妙なきっかけだった」鮑彦山が口をはさんだ。(中略) どうしたんだと訊いても、当人は何も覚えとらん。その十数年間、ずっと眠っていたみたいだとさ」〔鮑〕

(5) 觉民弟兄午后到学校去。学校里已经上课了，但是教员中请假的却有几个，学生也比平时少了三分之一。他们这天没有课，在学校里停留一些时候，便回家了。《家》

(5’) 觉民兄弟は午後学校へ行ってみたが、もう授業ははじまっていた。しかし休暇をとっている教師たちもかなりあったし、学生はいつもの三分の一だった。彼らはその日は授業がなかったので、学校にしばらくいて帰ってきた。〔家〕

(4)の“这十多年”は前文の“疯了有十几年”を指し示し、訳文では「その十数年」に訳されている。(5)の“这天”は「“这”+N」の構成で“这日/这月/这年”と同じく、時間を指し示す。前文には先行詞がないが、前文の意味から一日のことだということがわかり、文脈には一貫性があるため、“这”の「回指」用法に当て嵌まる。訳文では「その日」に訳され、「ソノ+N」の形になる。

杨玉洁(2010)によれば、中国語の時間を示す指示詞“这时(zhè shí)”と“那时(nà shí)”は両方とも前文に現れた過去の時間を指すことができる。しかし、“这时”は「回指」として過去や現在など時間を指し示すが、“那时”は指し示さない。それに対して“那时”は「回指」として将来の時間を指すが“这时”は指さないと論述している。よって、(4)と(5)の“这…”の用法は、杨玉洁(2010)が述べている時間を表す中国語の指示詞の用法の意味の範疇に合致している。つまり「“这”+時間表現」は指示と代替機能

があり、現在と過去の時間を指すことができる。「“那”＋時間表現」も同じく指示と代替機能を備え、過去と未来を指すことができる。

中国語の指示詞「“这”＋時間表現」と「“那”＋時間表現」は両方とも過去を表すことができるので、本来(4)の“这十多年”は“那十多年”と、(5)の“这天”は“那天”を入れ替えることができる。しかし、(4)、(5)の話し手が過去に戻り、時間を表すより臨場感を重視し、「“这”＋時間表現」のほうが、過去という時間を示すのに重点を置く「“那”＋時間表現」より生き生きとしている場面を表現できると判断し、“这”を選んだのだろう。一方、訳文(4')、(5')の文中の過去形から見ると、記憶に貯蔵している情報を引き出すという形で語っているとわかる。そのため、過去の時間を重んじ、中称指示の「ソ」系指示詞に翻訳されていると考えられる。これは時間を指し示す場合、“这”と日本語の「コ」系指示詞が対応しておらず、「ソ」系指示詞と対応していることが原因だろう。

4.3 “这” ⇔ 「ア」

“这1”＋(NumCL)＋N/NP

(6) “妈妈，请你原谅我。我再也不说这些话了。今天不知道怎么，我心里又烦又乱，只想发火。”《鲍》

(6') 「お母さん、ごめんなさい。二度とあんなことと言わない。きょうはどうしてか分からないけど、いらいらして、すぐかっとなってしまうの」
〔鮑〕

(6) の“这些话 (こんな話)” は「“这”＋NumCL＋N」の形で、話し手が母親に話したことを指し、(6) の指示詞“这”と不定数量詞“些”と共に使用して、二つ以上の人物・事物など複数を示している。(6) では話し手が母親にさきほど話した話と類似している言葉もこれから一切発言しないということを表している。訳文では「あんなこと」に訳され、数量詞を訳さず、単数が複数を示していない。ここで注目しておきたいのは、“这”が「ア」系指示詞に訳された例においては(6)のような会話文が地の文より多いことであ

る。庵他（2001：5）には「文章における文脈指示ではアは使われない」とあるが、これは今回調べた結果とほぼ合致している。聞き手と話し手が存在する会話なら、聞き手と話し手が共有している情報、話し手の特定の体験などは「ア」系指示詞を用いるからである。（6'）の「あんなこと」は話し手と聞き手（母親）が両方共有していることであるため、「ア」系指示詞に訳されており、さきほど娘が母親に対して話した内容を指しているため、（6）の“这些话”と（6'）の「あんなこと」が対応している。（6）の場合“那些话”も使用できるが、話したばかりの内容に関しては“这”のほうがよく用いられる。ここで日本語と中国語指示詞のずれが見られる。中国語では指示詞を使用する場合、距離と時制を優先するが、日本語の場合、遠近や過去、未来、現在を配慮しながら、話し手と聞き手の領域を重視している。（6）のような話し手と聞き手双方の領域に共存する知識なら、必ず「ア」系指示詞を用いる。

（7）“陶阿毛怎么样？这个人机灵，能干，勇敢，就是喜欢喝这么两杯，给他两瓶酒，要他做啥就做啥。”《上海》

（7'）「陶阿毛はいかがでしょう？あの男は、すばしっこくて、やり手で、度胸があって、二三杯ひっかけるほうは目がありませんから、酒の二三本もやれば、こちらでやれということは、なんでもやります」
〔上海〕

（7）の“这个人”は「陶阿毛」を指し、「“这” + NumCL + N」の形だが、“这个人”の“个”は単数を示す数量詞なので、指示対象を立てる効果がある。訳文では「あの男」に訳され、数量詞は訳されていない。

（7）の前文“陶阿毛怎么样？（陶阿毛はいかがでしょう？）”という発話から、聞き手も「陶阿毛」を知っているという情報が確定できる。中国語では「回指」用法の指示詞“这”を用いるが、日本語の訳文では原文と同じように前文の「陶阿毛」を指している前方照応指示の「あの」を用いる。話し手と聞き手の共通情報ならば、日本語では特に会話文なら「ア」系指示詞が用いられる。仮に前の文が“陶阿毛你认识吗（陶阿毛は知っている？）”に

変われば、訳文では「あの男」ではなく、「その男」に訳される。このように基本的に、会話では聞き手の知らない場合、「ソ」系指示詞を使用する⁽³⁾。それは金水他（1989：38）と高草萍（2002：133）が述べている例と合致している⁽⁴⁾。

“这2” + (NumCL) + N/NP

(8) “我忘记告诉你一件事，”婉小姐一边检东西，一边说，“前天朱竞新来说起县西街①那家祥茂发杂货店，上一节做的太坏了，几个股东彼此都有闲话，闹的不大好看。我们还有千把块钱存在②这铺子里呢，还是趁早设法提了出来罢，明天你就去。”《霜》

(8') 「忘れるところだったわ」彼女は化粧品を扱ひながらいった。「おととい朱競新さんから聞いたんだけど、西通りの祥茂発ね、①あそこがこの前の決算でだいぶ赤字を出したんですって。出資者たちが大騒ぎらしいわ。それで、うちでも②あそこにまだ千いくらか貸しが残っていたでしょう、早いとこ引きあげた方がいいようだから、あした行ってきたくださらない」〔霜〕

(9) “哦，原来祥茂发这一家老店也靠不住了，”和光不胜感慨地说，“只是找谁好呢？”《霜》

(9') 「へえ、あんな老舗までがねえ」和光は感慨深げにいった。「で、誰のところに行ったらいいの」〔霜〕

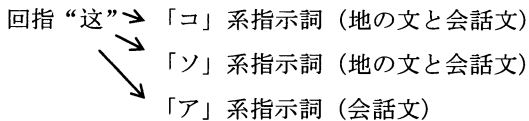
(8) と (9) の話し手と聞き手は同じ人物であり、二人とも現場にいて同じ話題をめぐる会話しているため、話の内容が繋がっている。話し手が言い出した「西通りの祥茂発」は聞き手も知っている店である。よって、(8') の①、②と (9') では「ア」系指示詞を用い、それぞれ「あそこ」と「あんな」に訳されている。ここで (8) の①の指示対象は話し手の直前の発話にあるが、(9) の指示対象は相手の発話にあることに注目すべきである。(8) で話し手が初めて「西通りの祥茂発」を言及する場合、指示詞“那”を用いて①“那家祥茂发杂货店”と表している。二回目に「西通りの祥茂発」言及する場合、

指示詞“这”を用いて②“这铺子”で表している。これに対して、日本語の訳文ではすべて「あそこ」に訳されている。(8)の内容からみると、話し手は最初に記憶に蓄えている情報“那家祥茂发杂货店”を思い出したが、まだ自分と関わりがないため、心理的な距離が遠いわけである。そのため遠称指示の“那”で示す。しかし、会話が進むにつれて、話し手は自分が「西通りの祥茂発」にお金を預けていることを表明し、本来関係がない場所（西通りの祥茂発）は利益と結びついている所として登場する。そのため二回目の登場は話し手にとって、心理的に距離が近くなり、近称指示の“这”で指し示す。日本語の訳文(8')では中国語文(8)のような心理的な変化に伴う、遠称指示詞から近称指示詞への移行はなく、文の始めから終わりまで、話し手と聞き手が両方とも知っている情報なら、「ア」系指示詞という基準で指示詞を用いる。(9)の“这一家”も同じく、訳文「あんな老舗」は、訳者が偶然に「ア」系指示詞を使用しているのではなく、中日指示詞の選択基準が異なるとわかる。

5. まとめ

本論では文脈指示として使用されている“这”の「回指」用法について、日本語の「コ・ソ・ア」系指示詞との対応状況を考察してきた。結果は以下の通りである。

- ①「回指」用法の“这”は「コ」、「ソ」、「ア」系3つとも対応できることが明らかになった。以下に示したようになる。



- ②「回指」の“这/那”が「コ」「ソ」系指示詞と対応している要因は、原文の著者と日本語訳の訳者が同じ視点で物事を述べているかどうかである。たとえ過去の出来事であっても、より聞き手に臨場感を持たせるために、近称指示の“这”を過去の時間として表す場合がある。それと

同様に、訳者も翻訳では近称指示の指示詞を用いることができる。

- ③ 今回の調査資料では「回指」用法の“这”は「ア」系指示詞に訳された例が極めて少なく164例のみ（「コ」系指示詞は2363例、「ソ」系指示詞は1433例）である。そのうちでも場所と時間を指す例が最も少なく8例と2例のみであり、そのほとんどが人と物事を指し示す例である。ここで注目しておきたいのは、“这”が「ア」系指示詞に訳された例はほぼ会話文であることだ。聞き手と話し手が存在する会話なら、聞き手と話し手が共有している知識や情報など「ア」系指示詞が用いられることが多いと推測できる。それは庵他（2001）が述べているように「文章における文脈指示ではアは使われない」ということを裏付けている。
- ④ 中国語文では、話し手が長期記憶に蓄えている情報を思い出す場合は遠称の“那”、話し手自身と関わっていないことなど、心理的な距離が遠い場合も遠称の“那”を用いる。しかし、会話の内容を変えていくうちに、本来話し手に関係がない人物や事柄などが、話し手の利益と結びつくようになる場合、さきほど“那”で指していたものは、話し手に心理的な距離が近くなるため、近称指示詞“这”で指し示す。一方、日本語文では中国語文のような心理的な変化につれて、遠称指示詞から近称指示詞に変わることがなく、文の始めから終わりまで、話し手と聞き手が両方とも知っている情報なら、「ア」系指示詞という基準で指示詞を用いる。

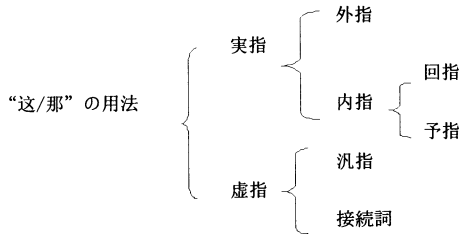
注

(1) 【日中対訳作品のリスト】

原文	省略	訳文	省略	著者	訳者
《插队的故事》	《插》	『還かなる大地』	〔大地〕	史铁生	山口守
《盖棺》	《盖》	『棺を蓋いて』	〔棺〕	陈建功	岸陽子
《丹凤眼》	《丹》	『鳳凰の眼』	〔鳳〕	陈建功	不明
《轱辘把儿胡同9号》	《轱辘》	『轱辘把胡同九号』	〔轱辘〕	陈建功	不明
《关于女人》	《女人》	『女の人について』	〔女〕	谢冰心	竹内実
《活动变人形》	《人形》	『応報』	〔応報〕	王蒙	林芳
《红高粱》	《红》	『赤い高粱』	〔高粱〕	莫言	井口晃
《金光大道》	《金》	『輝ける道』	〔道〕	浩然	神崎勇夫（ほか）
《家》	《家》	『家』	〔家〕	巴金	飯塚朗
《轮椅上的梦》	《梦》	『車椅子の上の夢』	〔夢〕	张海迪	飯塚朗
《呐喊》	《呐》	『呐喊』	〔呐〕	鲁迅	竹内好
《彷徨》	《仿》	『彷徨』	〔仿〕	鲁迅	竹内好
《青春之歌》	《歌》	『青春の歌』	〔歌〕	杨沫	島田政雄・三好一
《倾城之恋》	《倾》	『傾城の恋』	〔傾〕	张爱玲	池上貞子
《棋王》	《棋》	『チャンピオン』	〔棋〕	阿城	立間祥介
《人到中年》	《中年》	①『北京の女医』	〔①女医〕	譚榮	①田村年起
		②『人、中年に到るや』	〔②中年〕		②林芳
《人啊人》	《人啊》	『ああ、人間よ』	〔人間〕	戴厚英	大石智良
《上海的早晨》	《上海》	『上海の朝』	〔上海〕	周而复	不明
《霜叶红似二月花》	《霜》	『霜葉紅似二月花』	〔霜〕	矛盾	立間祥介
《小鲍庄》	《鲍》	『小鮑莊』	〔鮑〕	王安	佐伯慶子
《骆驼祥子》	《骆驼》	『駱駝祥子』	〔駱駝〕	老舍	立間祥介
《钟鼓楼》	《钟》	『鐘鼓樓』	〔鐘〕	刘心武	苏琦
《天云山传奇》	《天云山》	『天雲山伝奇』	〔天雲山〕	鲁彦周	田畑佐和子

(2) 杨玉玲(2010)は“这/那”の用法を【表1】に示す2種6類に分類している。まず、「実指」と「虚指」に二分するが、前者が指すものは実体的、すなわち実指的である。後者が指すものは非実体的、すなわち虚指的である。また、「実指」を、指示詞が指し示す対象はその文に存在せず談話の現場などにある「外指」と、前文あるいは後文にある「内指」に分けている。後者はさらに「回指」と「予指」に細分されている。「回指」は、指示詞が指し示す対象が前文にあり、“这”あるいは“那”は指示対象の後ろにある。「予指」は、指示詞が指し示す対象が後ろの文にあり、“这”あるいは“那”は指示対象の前に使われているとの区別がある。「虚指」は「汎指」と「接続詞」に二分され、前者は具体的に会話や文章にある特定対象を指し示すのではなく、およそのことを指す。例えば、「夫妻俩整天就是这样，这个回来那个走（ある夫婦は毎日のようにこの人が帰れば、あの人が出かける）（作例）」の中の“这个”“那个”とは夫と妻どちらを指しているかはっきりしていないが、その夫婦のどちらかを指しているという用法で、「汎指」である。以下の表は杨玉玲(2010)の中国語指示詞“这/那”の指示用法分類表である。

【表1】杨玉玲(2010)の“这/那”の分類



(杨玉玲2010: 25を一部修正)

(3) 金水敏では、「ア」系指示詞については以下のように述べている。

文脈指示のアで指し示せるのは、自分と相手とが、共通の過去の体験の中で出会って知っている物事（人・もの・事柄・場所・時間…）である。

「大学院生の、木村さんをご存じですよね」。

「ええ、知っています。あの人とは、10年以上の友達です」。(金水他1989:80)

(4) 高革萍（2002: 175）は中国人学習者のアンケート調査を行った。以下の例は実際にアンケート用紙に記載された例である。

甲：山本さんを知っていますか。

乙：もちろん知っていますよ。（この・その・あの）人とは十年の友達ですよ。

参考文献

中国語の参考文献

- 陈玉洁(2010)《汉语指示词的类型学研究》pp. 21-74 中国社会科学出版社
- 蒋华(2005)《指示代词“这”的上下指差异研究》安阳师范学院学报 第3期 pp. 101-102
- 吕叔湘(1985)《近代汉语指代词》(江蓝生补) pp. 184-239 学林出版社
- 劉月華(1988)『現代中国語文法総覧』くろしお出版
- 杨玉玲(2010)《“这”、“那”系词语的篇章用发研究》pp. 31-117 中国广播电视出版社
- 朱德熙(1982)《语法讲义》pp. 85-92 商务印书馆

日本語の参考文献

- 高革萍(2002)「指示詞の日中対照—中国人学習者の誤用を参考に」『早稲田日本語研究』10
pp. 123-134 早稲田大学国語学会
- 高麗雅(1986)「指示詞『コ・ソ・ア』についての一考察-コノ・ソノ・アノを中心として-」
『日本語教育』60 pp. 221-227 日本語教育学会
- 史隼(2011)「指示詞の照応用法に関する日中対照研究」『日本語/日本語教育研究』2
pp. 155-168 日本語/日本語教育研究会
- 史隼(2012)『日中指示詞の対照研究』一橋大学2011年度博士論文
- 白川博之監修・庵功雄他(2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』ス
リーエーネットワーク
- 田中望(1981)「『コソア』をめぐる諸問題」『日本語の指示詞』<日本語教育指導参考書8
>pp. 1-50 国立国語研究所
- 寺村秀夫監修・金水敏・田窪行則・木村英樹(1989)『日本文法セルフ・マスターシリーズ4
指示詞』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編(2009)『現代日本語文法7 談話・待遇表現』くろしお出版
- 路玉昌(1999)「中国語指示詞の文脈指示について」『吉備国際大学社会学部研究紀要』
9 pp. 135-144 高梁学園吉備国際大学
- 路玉昌(2000)「コ・ソの文脈指示について：発話内容が先行表現となっている場合」佐
治圭三教授古稀記念論文集編集委員会編『日本と中国ことばの梯(かけはし)
佐治圭三教授古稀記念論文集』pp. 207-215 くろしお出版
- 路玉昌(2001)「小説・童話におけるコノとソノの文脈指示について」『吉備国際大学社
会学部研究紀要』11 pp. 77-87 高梁学園吉備国際大学
- 路玉昌(2006)「中国語指示詞の文脈指示についての再考—日本語指示詞コソアへの対応と
関連して—」『吉備国際大学社会学部研究紀要』16 pp. 67-76 高梁学園
吉備国際大学

(きょう れいくん・大東文化大学大学院外国語学研究科博士後期課程)